令和7年度 第2回 伊勢原市図書館協議会 会議録

〔開催日時〕 令和８年１月２２日（木曜日）午後１時から
〔開催場所〕 伊勢原市立子ども科学館会議室
〔出 席 者〕
（委　　員）
会　　長　朝倉 徹
副 会 長　古住 有美
委　　員　板倉 博子
委　　員　高尾 知幸
委　　員　櫻井 綾子
委　　員　大橋 伸子
委　　員　川中 寛之

（事 務 局）
教 育 長　宮村 進一
教育部長　熊澤 信一
図書館・子ども科学館
参事(兼)館長　林 かをり
施設管理係長　秋山 喜則
事業運営係長　若林 千容
専門員　細野 文和
会計年度任用職員　内田 淳子

〔公開可否〕公開
〔傍聴者〕なし

≪会議次第≫
１　開　会
２　教育長あいさつ
３　会長あいさつ

４　議　題
(1) 令和７年度事業の進ちょく状況について
(2) YA サービスと若者の居場所づくりについて
(3) その他

５　閉　会

≪議事経過≫

１ 開　　会

（事務局）

過半数（７名中７名）の委員出席による協議会の成立について報告。

２ 教育長あいさつ

３ 会長あいさつ

４ 議　題

(1)令和7年度事業の進ちょく状況について

（委　員）

図書館を特集した広報いせはら（11 月 1 日号）の１面には、親子の楽しい会話が聞こえてくるような写真が載っている。一方、実際に図書館で会話を楽しむことは難しく、図書館にも、子どもの勉強をみてあげられる、或いは、会話を楽しめるスペースがあるとよい。

（会　長）

大学図書館でも最近は、グループワークなど話すことができるスペースを増やしている傾向がある。

（事務局）

市立図書館は、１階と２階が吹き抜け構造ということもあり、会話を楽しむことが難しい。例えば、お子さんに絵本の読み聞かせを行うなら、児童書コーナーの「おはなしの部屋」を活用していただければと思う。因みに、神奈川県立図書館では、サイレントルームという静かなスペースを、敢えて設けるなどしている。市立図書館でも会話を楽しめるよう何か工夫できればよいと思うものの、現状では、難しいかとも思う。

（副会長）

（小学校長）夏休み期間に図書館が実施した、児童カウンターで本を借りてカードにスタンプを集めると、子ども科学館の入場券がもらえる「スタンプラリー」について、各小学校の全児童にスタンプカードを配布していただき感謝する。しかしながら、結果として、図書館の児童カウンターで配布したカードの回収率は２４．６％であったのに対し、小学校配布分は１．４９％と大きな差が出た。配り方や、何かほかのイベントと組み合わせるなどの工夫が必要と感じた。

（事務局）

図書館としては、各小学校にスタンプカードをお配りしたことは、回収率こそ低かったものの、図書館に来ようと思うきっかけづくりとして効果はあったと捉えている。本を借りないまでも、図書館に興味を持ってくれた児童はいるはず。係再編により、図書館と子ども科学館の事業運営を一係に統合したことでできた事業とも考えている。このほか、クリスマス会に参加した子どもにプレゼントした手作りのオーナメントは、科学館の電動糸のこぎりで制作したもので、これも事業運営について係を一元化したことによる成果と考えている。

（委　員）

（中学校長）中学校では、図書委員がお薦めの本を、校内で紹介するなどの取組と合わせてスタンプカードを配布すれば、より成果が上がるかも知れない。

（2）YAサービスと若者の居場所づくりについて

（会　長）

年代別の図書貸出点数の比較をみると、いわゆる YA 世代を含む「中学生」「高校生以上」「20 代」が一見して少なく、かなり衝撃的である。

（委　員）

（公民館長）いわゆる YA 世代は、図書館に出向く時間が無いのではないか。こうした傾向は他市でも同様と思う。他市の取組を参考にするとか、図書館の特集架を PR するとか、また、公民館図書室も PR に使えるかも知れない。何かしらの仕掛けが必要ではないか。

（委　員）

（中学校長）図書貸出点数について、年代別で差がこれほどまでに顕著とは驚いた。中学生の一日をみると、部活動もあり小学生に比べ学校にいる時間が長くなる。家庭では習い事をする子もいる。また、大きな問題として、多くの生徒がスマートフォンを持つようになり、結果として、図書館に行かなくなるのではないかと思う。しかしながら、自分としては、実は結構、生徒の読書量はあると感じている。教室に読書スペースを設けている担任もいて、一定数の生徒は読書しているものの、図書館には行かない。図書館と学校が連携して、学校の行事等と組み合わせれば、読書量はもっと伸びる可能性があると考える。

（委　員）

YA 世代を含め若い世代はスマートフォンに時間を取られて、本に没入することがなくなっている。友人関係が優先で、常にスマートフォンを意識している。読書量に限らず、スマートフォンが若い世代にとって様々な面で大きな障害になっている。

（会　長）

学生時代には、図書館に CD や雑誌を借りに行ったものだが、今は、社会環境が変わり、音楽は配信が中心になり、雑誌は数が減っている。そうした中、若い世代にとって、本は実際の生活に役立つとか、図書館が自分にとって無縁な場所ではないと気付いてもらうことが課題と思う。オーストラリアでは国として、若い世代のＳＮＳ利用に制限をかけている。時間帯で利用を区切ることも一つの方法かも知れない。コロナ禍もきっかけの一つになったと思うが、学生も必要な情報はインターネットから得るようになり、教員や活字に頼らなくなった。学生に本を紹介しても、あまり響いている様子がない。図書館が、或いは、本は実は面白いということが分かってもらえれば、スマホ中毒を和らげることができるかも知れない。

（委　員）

直接、読書には繋がらないかも知れないが、引きこもりがちな若い世代へのアプローチとして YA サービスを捉えてもよいかも知れない。図書館に来る目的はそれぞれでよいし、気楽に来られる場所として有効と思う。メンタル面のバリアフリーが大切と思う。

（委　員）

図書館の職員と話す関係ができたり、或いは、公民館に遊びに行って、職員とつながりができたりすれば成長のきっかけになる。

（事務局）

引きこもりがちな若者の居場所づくりの一助として、図書館で人と人のつながりをつくり社会性につなげるため、図書館で配架などのボランティアを行ってもらうことも、将来的には考えていきたい。

（3）その他

特記事項なし

午後 2 時 25 分閉会